

# 部活動体験で入部率アップ! 授業規律の確保で 体力アップ!

## 大阪府大阪市立淀<sup>よど</sup>中学校

全校生徒数	484名(男子261名 女子223名)		
全クラス数	15	教職員数	36名(内体育専科3名)
運動部活動	9	運動部活動参加率(全学年)	54.0%
地域のスポーツ指導者の活用(年間延べ人数)			30人

### 取組時の課題と目的

#### 1 取組時の課題

平成20年度に入学した生徒は、当初こそ部活動への加入率が高かった(76.3%)ものの、定着せず(3年次51.1%)、生活指導上の課題も大きなものとなっていました。また、女子体育の授業見学者も多く、活発な授業が展開できていませんでした。

#### 2 取組の目的

- ①授業規律を確保し、女子体育の授業見学者を減らす。
- ②保健の授業を生かし、生徒一人一人が主体的に体力の向上と健康の維持に努めるようにする。
- ③部活動の加入率を上げ、2・3年時での定着率を高める。

### 取組の内容(右ページも参照)

#### 1 授業規律の回復

体育大会の学年種目では、クラス練習や自主的な練習を通して、学級担任を中心に学級集団、学年集団の育成に努めました。また1・2年生は、例年、大阪城マラソン(個人)と駅伝大会(学級対抗)への参加に向けて、2月から始業前に20分間、チャレンジマラソンとして、自主参加の練習を行います。早朝でも200名程度が参加します。

平成20年度以降、生活指導面、授業規律の回復に最も力を入れてきました。こまめに家庭訪問を行い、家庭と協力して改善方法を模索し、キャリア教育の観点から、社会人にふさわしい行動の指導にあたりました。その結果、平成22年度には、生徒の問題行動もほとんど見られなくなる等、年々改善が見られるようになりました。

##### (1) 体育授業における工夫

平成20年度の入学生は、落ち着きがない傾向があり、授業が成立しにくい状態でした。体育授業においても、女子の見学者がたくさんいました。

この現状を踏まえて、体育授業の規律回復については、以下のような取組をしました。

##### ① 授業の導入の工夫

授業開始時の準備運動や、補強運動を工夫しました。生徒が飽きないよう種類を多くしました。また強度や回数を調節し、「できない」と投げ出してしまうこともなく、簡単すぎることもないようにしました。

##### ② 運動が苦手な生徒への工夫

運動が得意でない生徒に対しては、ボールを使ったフェンドリルなどを行い、楽しく知らず知らずのうちに体力が

つくようにしました。

#### ③ 取組の結果

平成20年度入学生が3年生になった頃には、授業規律が回復し始めました。将来の進路を見据え、前向きに授業を受けるようになりました。すると、体育授業の女子見学者もめっきり減りました。

#### 2 部活動の加入率アップの取組

2学期末テストの最終日に、中学校説明会を開いていません。校区の小学校3校の6年生の児童全員に本校に来てもらい、中学校生活について生徒会役員が説明を行い、その後部活動の見学を行っていました。

平成22年度には、部活動見学の時間が長く取れ、小学生への部活動体験を実施、その効果か翌年は、部活動の加入率が上昇し、2・3年時の定着率が高くなりました。

#### 3 健康へのアプローチ

平成22年度の文化祭で、保健委員会が朝食と健康をテーマにしたビデオ「超-SHOCK」を制作上映しました。

また、保健の授業を生かし、体力の向上と健康の維持の指導に努めた結果、週あたりの総運動時間も伸びています。

#### ● 工夫したこと

- ①小中連携教育を活用して、小学校のクラブと本校の部活動が合同の練習を行っています。
- ②生徒アンケートを行い、地域のスポーツクラブやダンス教室で活動している生徒の把握に努めました。
- ③健康について自覚を促す「場の設定」に努めました。

### 取組の成果(右上の表を参照)

- ①授業規律が回復し、体育の授業見学者が著しく減少しました。体育授業開始前のランニングが定着しました。
- ②部活動の加入率が、高い水準にあります。また定着率も高く、平成24年度の2年生は70%を超えています。

### 今後の課題

- ①多くの生徒が部活動に参加するようになりましたが、教員の転勤もあり、多数の部員をかかえる部活動の継続が課題となっています。
- ②授業規律の確保が、学力向上のみならず、体力向上の基盤であり、教員の意識継続が重要です。

●学校質問紙調査回答より(H24)

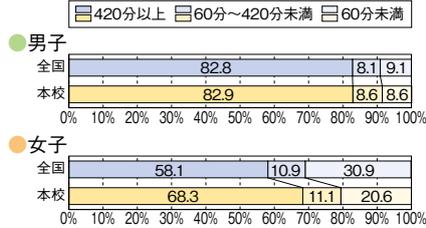
問2-2 運動習慣確立のたぐい

- 1 時間確保(休み時間) 2 保護者への働きかけ  
 ③地域連携 4 運動部加入率向上 5 その他

問4-2 運動時間の少ない生徒に対する取組

- ①時間確保(一斉運動) ②個人差・発達の考慮  
 ③体力向上の意義理解 ④女子への啓発  
 ⑤意欲関心を高める ⑥楽しさを感じさせる  
 ⑦新体力テストの活用 ⑧地域・家庭との連携  
 ⑨運動部への参加促進 10 その他

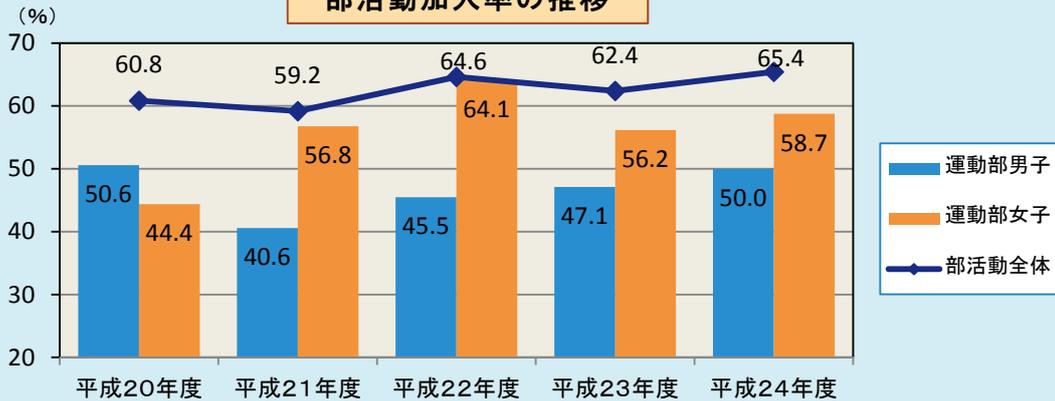
●1週間の総運動時間の分布(H24)



●体力合計点と総合評価の割合

	男子		女子	
	H21	H24	H21	H24
体力合計点(点)	39.0	40.1	38.3	51.5
総合評価(段階別)	A	1.4	0.0	5.1
	B	18.1	20.7	12.8
	D	30.6	31.0	41.0
	E	6.9	5.2	5.1
	AB-DE	-18.0	-15.5	-28.2

部活動加入率の推移



平成20年時、1年生は部活動加入率が高いものの、2年生と3年生の半数近くが部活動をやめてしまっている現状がありました。

体育大会での学年種目



●体育大会が近づくと、早朝よりクラス全員がそろって、学年種目の練習を行います。

組体操



大阪城マラソン大会とチャレンジマラソン



●チャレンジマラソンでも、学級担任を中心に、学級集団づくりの機会として多くの生徒の参加を促しています。

学校外の運動活動を把握

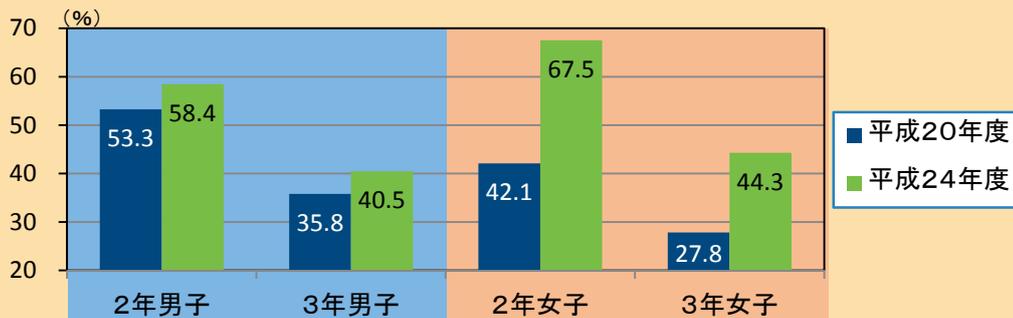
今年度より、生徒アンケートで学校以外での運動の取組の調査を実施し、生徒の実態把握につとめました。

保健体育の授業規律の回復

授業の導入の工夫や、運動が得意でない生徒への対策などに取り組み、授業規律の回復につとめました。

中学校説明会

平成22年度は、生徒会主催の中学校説明会の後、小学生に部活動見学だけではなく、部活動体験を行っていただきました。部活動体験は、小学校児童にも、部活動顧問にも好評でした。小学生が帰校する時間に制限があり、十分な時間が取れませんでした。時間を工夫し、今後も体験を継続していきます。



2・3年時の運動部加入率もアップ!